

令和4年度仙台市若林区まちづくり活動助成事業
実績報告および質疑応答（質疑まとめ）

《報告の流れ》

1 団体 8 分で発表。1 団体ごとに評価委員による質疑をし、最後に評価委員長から総評を得る。

連坊オモシロ街あるき

連坊商興会青年部

Q まち歩き 1 回につきスタッフ 7~8 名と、充実した人員を確保していらっしゃるが、スタッフはどのような人たちで構成されているのか。

A スタッフは青年部、元青年部、ボランティアで構成されている。

意見 → 団体名が青年部となっているが、実態はもっと広がりがあるということであれば、それが面白いところでもあると思うので、もう少しユニークな別の名前で、実態に即した団体で申請されるとか、新しいコミュニティをつくることを目指してもよいのではないかと。

Q 事業実績概要報告書の事業の成果・効果の欄で、「学生ボランティアに教えられることもあった」とあるが、具体的にどういった点を教えられたのか。

A 荒町市民センターで座学を行った際に、「入口に『連坊オモシロ街あるき』と表示したほうがいい」「会場が殺風景なので、いつもまち歩きで使っているのぼりを持ってきて、まち歩きの座学だという雰囲気を出した方が良さ」「お釣りをもう少し用意しておいたほうがいい」「受付にも『受付』と表示したほうがいい」など、私達が気付かないところを指摘してくれた。外の人を入れる大切さを実感した。

Q 作成した動画はどこかで発信されているのか。

A 除夜の鐘の動画は YouTube にアップしたが、li1357 さんからいくつか指摘いただいた点を改善して、再度アップしようと思っている。街あるきの動画のほうは、li1357 さんから地下鉄の音声や映像を、交通局の許可なしに使用して問題はないのかと指摘されたので、今後確認する。

意見 → 外部の方が動画を見たときに、どこの・何の映像なのか、テロップがないとわかりにくいと思うので、今後動画編集をされる際には参考にさせていただきたい。

Q 参加者に親子連れはいたのか。また、マイスクール児童館はどのような役割をされたのか。

A 小学生の親子連れの参加があった。マイスクール児童館は、連坊地域の行事において、様々お手伝い頂いている。例えば、街あるきではないが、動画内の裸参りで歩いている子供たちは、多くがマイスクール児童館を通じて参加している。また、毎回街あるきのチラシを置いてもらうだけでなく、声がけもしてくれているので大変助かっている。

Q 街あるきは毎回定員 15 名で募集していたようだが、応募状況について伺いたい。

A 回によってバラつきがあった。募集した定員よりも多く対応した回もあった。以前 30 名以上になったときがあって、そのときはガイドの声も全員へ届かず大変だった。

Q 参加者における連坊地域の方の割合はどの程度であったか。また、地域外の方へはどのように広報を行ったのか。

A 連坊地域外の方の割合のほうが多かった。地域外の方への広報は特別行っていないと、回覧板や、連坊の商店にチラシを置くなどの広報活動を行っていた。その他、SNS での宣伝や、国分町の知人の店に貼ってもらっていた。あとは口コミで来て下さった方もいた。

Q 街あるきへの高齢者の参加割合はどの程度であったか。

A 圧倒的に高齢者の参加が多かった。中には車いすの方もいらっしゃった。

意見→どうしてもイベントにおいて高齢者の参加割合が増えると、体力に差があったり、具合が悪くなったりと、その分スタッフの人員も必要になってくると推察するが、やはり地域が盛り上がるためにも、高齢者も参加しやすいようなイベントを今後も継続して行っていただきたい。

あらい七夕プロジェクト

あらいフェローズ

Q チラシに「主催：荒井駅前七夕まつり実行委員会」とあるが、「あらいフェローズ」とはどのような関係性なのか。

A 地域の方から、「あらいフェローズってよくわからない」とのお声をたくさんいただいたので、メンバー自体はあらいフェローズのメンバーそのままだが、あらいフェローズの下に荒井駅前七夕まつり実行委員会を組織した。

Q 申請の際に、若者の参加について重要視しているとお話されていたかと思うが、そのあたりの達成度についてお聞かせ願いたい。

A あらい七夕夏まつりと同日に、学生さんと協力して企画したまち歩きも併せて実施した。まち歩きには、当日 90 名の方にご参加いただいた。

Q 七夕飾りの制作には 1,500 名の方が関わってくれたとのことだが、材料は足りたのか。和紙は値段が張ると思うが、協賛等いただいたのか。

A くす玉や吹き流しについては、和紙をつかうものだったので、助成金の中から支出した。その他は折り紙などあるものを持ってきて下さった方もいたので、あるものと協賛いただいたもので作成した。小学校の児童に折ってもらった鶴は、地元の企業さんからご支援いただいたものを使っている。足りないものは企業さんから協賛いただくというかたちを取った。

Q 地下鉄の駅に七夕飾りを飾る上で、交渉等は難しくなかったか。

A 交通局のほうで前向きに検討してくださったので、時間はかかったが特に大変ということはない。

Q 市民センターや小中学校の PTA、社会学級との関わりはあったか。

A 社会学級のお母さんが参加してくださったり、市民センターで積極的にチラシを置いていただいたりした。代表の庄子が町内会長を務めているので、横の繋がりで広くお声がけをし、様々な方にご協力いただくことができた。

Q 当初の申請書類には夏まつり企画はなく、その後大幅に見直しての夏まつり開催に至ったのだと思うが、夏まつりの企画自体は元々あらいフェローズのほうで持っていたものだったのか。

A 当初確定はしていなかったが「やりたい」という声はあった。七夕飾りを作成していく中で、やはり皆さんに見ていただく機会も必要ではないかという声が強まり、今回の夏まつり開催に至った。

Q 来年以降も引き続き開催していくのであれば、七夕には来られなかったけれども、メモリアル交流館のほうに足を延ばした方が、前年の事例を振り返れるようなスライドショーをするなどの企画はあるか。

- A 企画はしていなかったが、大変素敵なアイデアだと思うので、メンバーと共有したい。
- Q 参加された方にアンケートは実施したのか。
- A あらいフェローズのメンバーへのアンケートを取り、改善点を洗い出すことが出来た。

仙台屋台を活用した「集まる場を整える」プロジェクト

株式会社めぐみキッチン

- Q 井土プチマルシェに参加され、大変好評であったと記憶している。今後も本体事業とは別のところで屋台をレンタルするということは可能性として十分あると思うが、そういったことへの状況の整備は検討しているのか。
- A 今後検討したいと思っている。そのためには、「Web 配信はこういった状態でできる」「こういう手伝いまでは可能」など、サービスを明確化する必要があると思う。そのためにも、今回はとても良い実験になった。
- Q 個人的には、もう少し文化財的なかたちでの屋台の修繕や活用をイメージしていた。今後、屋台の文化財としての一面をどのように継承していこうと考えているのか。
- A 仙台屋台の何を残して継承していくかという話を、メンバーとも時間をかけて話し合った。屋台の形を残すなど、色んな視点があると思うが、我々としては、屋台の「人と人が出会い、語らい、仲間が増えていく場である」という機能も屋台らしさであると思っていて、今後屋台を語らいの場としてしつらえていくことが、仙台屋台を現代風にアレンジして継承していくことになると思っている。修繕については、より長持ちするような材料を選んで、材料に合わせた方法を選んで修繕したので、屋台の伝統的なつくりを踏襲したというよりは、かたちを長く持たせるための修繕の方法を取った。一方で、赤いカウンターや柱の凸凹感、裏のおしながきなど、屋台を経験したことのある方が、当時を思い出すスイッチになるような場所は出来るだけ残した。

市民活動において重要なことは、地域内外の顕在化していない様々なニーズを掘り起こして、賛同者を増やしながらか、継続して活動していくことです。今回ご報告いただいた3団体においては、それぞれ潜在的なニーズを掘り起こして、自らの知恵と行動力で活動を立ち上げていただいた、大変先駆的な取り組みであったと思っております。しかし一方で、どんな活動も賛同者を増やすということが大きな壁になってくるものです。賛同者というのは、イベントの参加者だけでなく、組織の中核となって皆さんと一緒に知恵を出し、汗を流すメンバー、そしてそういった方々を支えるボランティアの方たちも含まれます。市民活動をより熱くしていくためには、中核のメンバーをいかに増やしていくか、そして、アイデアを出し合いながらより活動を深めていくことがとても重要です。

次に継続性についてですが、助成が終了したあとにどうなるか、今のうちからイメージしながら作戦を立てていくことが重要であると考えます。残念ながら、助成金の終了とともに活動も終了してしまう団体が多いと認識しております。各団体、色々なアイデアでスタートした事業なので、助成が終わった後も様々なかたちで活動資金を調達しながら、活動をより広げていっていただきたいと思ひます。当助成事業は、最大3年間助成が受けられるので、是非次年度も手を挙げていただいて、今申し上げたことを意識しながら、事業内容や体制のバージョンアップを行い、より充実した活動にしていっていただきたいと思ひます。